

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 長崎大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人長崎大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・ 通信制の 場合 | 実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数 | | | | 省 令 で 定 め る 基 準 単 位 数 | 配 置 困 難 |
|----------|--------------------|-------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------|--------|---|------------------|
| | | | 全 学 共 通 科 目 | 学 部 等 共 通 科 目 | 専 門 科 目 | 合 計 | | |
| 多文化社会学部 | 多文化社会学科 | 夜・ 通信 | | | 13 | 13 | 13 | |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 夜・ 通信 | | | 13 | 13 | 13 | |
| 経済学部 | 総合経済学科 (昼間コース) | 夜・ 通信 | | | 14 | 14 | 13 | |
| | 総合経済学科 (夜間主コース) | 夜・ 通信 | | | 14 | 14 | 13 | |
| 医学部 | 医学科 | 夜・ 通信 | | | 20 | 20 | 19 | |
| | 保健学科 (看護学専攻) | 夜・ 通信 | | | 13 | 13 | 13 | |
| | 保健学科 (理学療法学専攻) | 夜・ 通信 | | 15 | | 15 | 13 | |
| | 保健学科 (作業療法学専攻) | 夜・ 通信 | | | | 15 | 13 | |
| 歯学部 | 歯学科 | 夜・ 通信 | | | 43 | 43 | 19 | |
| 薬学部 | 薬学科 | 夜・ 通信 | | | 20 | 20 | 19 | |
| | 薬科学科 | 夜・ 通信 | | | 15 | 15 | 13 | |
| 情報データ科学部 | 情報データ科学科 | 夜・ 通信 | 4 | | 9 | 13 | 13 | |

| | | | | | | | | |
|---------------------------|------------------------|------|--|---|----|----|----|--|
| 工学部 | 工学科 (機械工学コース) | 夜・通信 | | 6 | 7 | 13 | 13 | |
| | 工学科 (電気電子工学コース) | 夜・通信 | | | 7 | 13 | 13 | |
| | 工学科 (情報工学コース) | 夜・通信 | | | 8 | 14 | 13 | |
| | 工学科 (構造工学コース) | 夜・通信 | | | 7 | 13 | 13 | |
| | 工学科 (社会環境デザイン工学コース) | 夜・通信 | | | 7 | 13 | 13 | |
| | 工学科 (化学・物質工学コース) | 夜・通信 | | | 7 | 13 | 13 | |
| 環境科学部 | 環境科学科 | 夜・通信 | | | 13 | 13 | 13 | |
| 水産学部 | 水産学科 | 夜・通信 | | | 13 | 13 | 13 | |
| (備考) 情報データ科学部は、令和2年度開設 | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

長崎大学ホームページにより公表

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/course/all/syllabus/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 長崎大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人長崎大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|--|
| 長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/director_career/index.html |
|--|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------------|--------------------------|---------------------|
| 非常勤 | 株式会社 顧問 | 2021.4.1 ~ 2023.3.31 | 基金・校友会・経営改革担当 |
| 非常勤 | 株式会社 代表取締役社長 | 2020.10.1 ~ 2022.9.30 | 広報担当 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 長崎大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人長崎大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------|------------------|------------------|----------|---------|---------------|----------|------|----------|------|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程・公表時期(2021年度スケジュール) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">2月1日(月)</td> <td>各科目担当教員へシラバス作成依頼</td> </tr> <tr> <td>2月1日(月)～2月26日(金)</td> <td>シラバス作成期間</td> </tr> <tr> <td>3月9日(火)</td> <td>担当教員の最終チェック締切</td> </tr> <tr> <td>3月17日(水)</td> <td>最終確定</td> </tr> <tr> <td>3月19日(金)</td> <td>公表開始</td> </tr> </table> | | 2月1日(月) | 各科目担当教員へシラバス作成依頼 | 2月1日(月)～2月26日(金) | シラバス作成期間 | 3月9日(火) | 担当教員の最終チェック締切 | 3月17日(水) | 最終確定 | 3月19日(金) | 公表開始 |
| 2月1日(月) | 各科目担当教員へシラバス作成依頼 | | | | | | | | | | |
| 2月1日(月)～2月26日(金) | シラバス作成期間 | | | | | | | | | | |
| 3月9日(火) | 担当教員の最終チェック締切 | | | | | | | | | | |
| 3月17日(水) | 最終確定 | | | | | | | | | | |
| 3月19日(金) | 公表開始 | | | | | | | | | | |
| 授業計画書の公表方法 | <p>長崎大学ホームページにより公表</p> <p>http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/course/all/syllabus/index.html</p> | | | | | | | | | | |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は履修を認定していること。</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の必須記載項目である「授業到達目標」及び「身につけてほしい力」に関して、同授業計画(シラバス)において評価方法及び基準を定めている。また、成績評価ガイドラインにおいて、GPAの算出に必要な評価(AA～D)の基準を定めている。 | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部において、下記のとおり GPA の算出方法を定め、ホームページにより公表している。 <p>なお、学部ごとの成績の分布状況の把握等については、長崎大学学務情報システム (NU-Web) 等を利用し、学生指導に用いる等、適切に実施している。</p> <p>【GPA の算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化社会学部、教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、情報データ科学部、工学部、環境科学部 $(\text{評価 AA の単位数} \times 4 + \text{評価 A の単位数} \times 3 + \text{評価 B の単位数} \times 2 + \text{評価 C の単位数} \times 1 + \text{評価 D (失格、欠席等を含む) の単位数} \times 0) / \text{履修登録単位数総数}$ ※認定科目は含めず、小数点第3位以下を四捨五入 水産学部 $(\text{評価 AA の単位数} \times 4 + \text{評価 A の単位数} \times 3 + \text{評価 B の単位数} \times 2 + \text{評価 C の単位数} \times 1 + \text{評価 D (失格、欠席等を含む) の単位数} \times 0) / \text{履修登録単位数総数}$ ※GPA の算定には専門教育科目のうち自由科目の授業科目は含めないものとする。また、認定科目は含めず、小数点第3位以下を四捨五入 | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | 長崎大学ホームページにより公表 http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/course/info/gpa/gpakeisan.pdf |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>下記のとおりディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにより公表し、適切に実施している。</p> <p>長崎大学のディプロマ・ポリシー</p> <p>長崎大学は、4年間あるいは6年間の教育プログラムに定められた単位を修得し、</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、考え、主張し、行動することができる。 分野・領域を超えて活用できる汎用可能な技能を身につけている。 専門職業人や研究者としての基盤的知識・技能を習得し、高い倫理観を身につけている。 地球環境と社会の多様性を理解している。 主体性をもって他者と協働できる。 地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている。 <p>と認められた者に対し、学位(学士)を授与します。</p> | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | 長崎大学ホームページにより公表 http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/pdf/policy/00.pdf |

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|------------|
| 学校名 | 長崎大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人長崎大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|--|
| 貸借対照表 | 長崎大学ホームページへにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/open/file/R1_zaimu_syohyo.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | 長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/open/file/R1_zaimu_syohyo.pdf |
| 財産目録 | — |
| 事業報告書 | 長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/open/file/R1_jigyohoukoku.pdf |
| 監事による監査報告(書) | 長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/open/file/R1_kanjihoukoku.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|---|
| 単年度計画(名称:令和3年度国立大学法人長崎大学年度計画 対象年度:令和3年度) |
| 公表方法:長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/philosophy/plan/index.html |
| 中長期計画(名称:国立大学法人長崎大学中期目標・中期計画 対象年度:平成28年4月1日~平成34(令和4)年3月31日) |
| 公表方法:長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/philosophy/plan/index.html |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法:長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/result/index.html |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|---|
| 公表方法:長崎大学ホームページにより公表 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/guidance/disclosure/published/legal/ninsho/index.html |
|---|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|--|
| 学部等名 |
| 教育研究上の目的（公表方法：長崎大学ホームページにより公表 http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/philosophy/university/index.html ） |
| <p>(概要)</p> <p>長崎大学は、以下に示す理念・基本的目標の下で教育研究を行う。</p> <p>【大学の理念】</p> <p>長崎大学は、長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する。</p> <p>長崎大学は、出島を介した『勉学の地』としての誇りと『進取の精神』を受け継ぐとともに、宗教や科学における非人道的な負の遺産にも学び、人々が『平和』に共存する世界を実現するという積極的な意志の下に教育・研究を行う。そして、蓄積された『知』を時代や価値観を越えて継承し、人類を愛する豊かな心を育て、未来を拓く新しい科学を創造することによって、地域と国際社会の平和的発展に貢献する。</p> <p>【大学の基本的目標】</p> <p>長崎大学は、東シナ海を介して大陸と向き合う地理的環境と出島、原爆被ばくなどの記憶を有する地域に在って、長年にわたり培ってきた大学の個性と伝統を基盤に、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与する。第 3 期中期目標期間においては、具体的に以下の項目を基本的目標として設定し、新しい学長主導ガバナンス体制の下、改革を迅速かつ大胆に推進する。</p> <p>(1) 熱帯医学・感染症、放射線医療科学分野における卓越した実績を基盤に、予防医学や医療経済学等の関連領域を学際的に糾合して、人間の健康に地球規模で貢献する世界的“グローバルヘルス”教育研究拠点となる。</p> <p>(2) 全ての教育研究領域の高度化、国際化を推進するとともに、国内外のトップレベルの大学との連携の強化及び実質化、管理運営・人事システム改革、学内資源の適正再配置等をとおして、大学全体の総合力を格段に向上させ、世界最高水準の総合大学への進化のための基盤を構築する。</p> <p>(3) グローバル化する社会の要請に応えるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と、多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する。</p> <p>(4) 特に学部教育においては、学生参加型の新しい教養教育と世界標準の学部専門教育との有機的結合により、問題解決能力・創造的思考力・コミュニケーションスキル等の学士力と各専門分野の知識・素養に裏打ちされ、現実の課題に即応できる個性輝く学士を育成する。また、新しい大学教育を高校教育改革と効果的に接続させるため、多面的かつ基盤的な資質・能力を測るための新しい入学者選抜方法を先進的に開発・導入する。</p> <p>(5) 地域に基盤を置く総合大学として、地域のニーズに寄り添いつつ、教育研究の成果を地域の行政、産業、保健医療、教育、観光に還元し、グローバル化時代における地方創生の原動力となる。特に、海洋エネルギー、海洋生物資源、水環境、地域福祉医療、核兵器廃絶など、地域社会の持続的発展に大きく貢献し、かつ、地球規模課題にも直結する特色分野における教育研究を重点的に推進する。また、東日本大震災直後から継続している福島との協働を強化し、福島の未来創造に貢献する。</p> |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：長崎大学ホームページにより公表 http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/pdf/policy/00.pdf http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/philosophy/faculties/index.html ） |

(概要)

【長崎大学のディプロマ・ポリシー】

長崎大学は、4年間あるいは6年間の教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・自ら学び、考え、主張し、行動することができる。
- ・分野・領域を超えて活用できる汎用可能な技能を身につけている。
- ・専門職業人や研究者としての基盤的知識・技能を習得し、高い倫理観を身につけている。
- ・地球環境と社会の多様性を理解している。
- ・主体性をもって他者と協働できる。
- ・地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている。

と認められた者に対し、学位(学士)を授与します。

【多文化社会学部】

多文化社会学部では、5つのコースで定める教育プログラムにおいて所定の単位を修得し、以下の資質を身につけたと認められた者に対し、学士(多文化社会学)の学位を授与します。

- ・グローバル化する世界において、人文社会系諸分野の幅広い知識を基礎として、社会的・文化的・言語的多様性の観点から、その意義を理解できる。
- ・英語を中心とした高度な外国語運用能力を有し、グローバル化する世界の多文化状況において、円滑にコミュニケーションおよびプレゼンテーションを遂行できる。
- ・多様な人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動できる。

【教育学部】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・幼児・児童・生徒の発達段階に応じて適切な指導ができる。
- ・教職や教科に関する専門的知識・技能を身につけている。
- ・社会人として必要な能力を身につけ、職場や地域の一員として適切な行動ができる。
- ・自ら学び、考え、教育の現代的課題に対応することができる。
- ・各コース・専攻に特徴的な専門的知識・技能を身につけている。

と認められた者に対し、学士(教育学)を授与します。

【経済学部】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・基礎的教養と現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけている。
- ・経済学、経営学やそれらに関する法学の専門知識と知的技術の基礎を身につけている。
- ・自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。
- ・現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。
- ・各コースの学修到達目標を達成している。

と認められた者に対し、学士(経済学)の学位を授与します。

【医学部医学科】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・倫理観とプロフェッソナリズム：自らの健康管理にも努め、生涯にわたる学習意欲を有し、生命倫理・医療倫理・研究倫理を重んじ、豊かな人間性と社会的使命感に基づいた行動ができる。
- ・医学・医療に関連する知識：医学・医療の基本的知識を有し、総合的理解に基づいて課題を探索し、適切に問題解決できる。
- ・医療の実践：医師としての業務を遂行する専門職として必要な基本的診療能力(統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的能力)を有し、適切な診療計画を立てること

ができる。

- ・コミュニケーション技能：人間理解に立った高い協調性のもとに医療の場において関わる全ての人との良好な人間関係を構築できる。
 - ・地域医療・社会医学・国際性：医療行政・福祉・保健・医療経済への配慮の下、チームの一員として多職種と協働し、地域社会や国際社会へ貢献するための能力を身につけている。
 - ・科学的探究：医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、科学性および医学的創造性に基づいた論理的思考や独創的発想ができる。
- と認められた者に対し、学士（医学）の学位を授与します。

【医学部保健学科】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・各専攻において、看護学・理学療法学・作業療法学における解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識を修得している。
 - ・各専攻において、看護・理学療法・作業療法を実践するための基本的技術を修得している。
 - ・地域で自立した生活を営めるように、対象者を身体的・心理的・社会的な視点から評価し、適切な支援を行うための理論や技術を身につけている。
 - ・医療・保健・福祉の連携・協働に必要な協調性やリーダーシップを身につけている。
 - ・保健医療と社会の関係について主体的に考えることができる。
 - ・高い倫理観と他者に共感できる心を身につけている。
 - ・グローバルな視点を持ち、地域社会および国際社会に貢献できる能力を身につけている。
- と認められた者に対し、看護学専攻にあっては学士(看護学)、理学療法学専攻、および作業療法学専攻にあっては学士(保健学)の学位を授与します。

【歯学部】

(一般コース)

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
 - ・歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
 - ・歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
 - ・歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
 - ・歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
 - ・多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯にわたり自己主導型学修を継続できる。
 - ・患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
 - ・患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
 - ・多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
 - ・離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。
- と認められた者に対し、学士（歯学）の学位を授与します。

(歯学研究コース)

一般コースに加え、以下が認められた者に対し、学士（歯学）の学位を授与する。

- ・未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

【薬学部薬学科】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・医療人としての豊かな人間性、生命の尊厳と患者の人権についての深い認識、人の命と健康を守る使命感・責任感および倫理観を有する。（薬剤師としての心構え、患者・生活

者本位の視点)

- ・生体および環境への医薬品や化学物質などの作用・影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。(基礎的な科学力)
 - ・薬剤師として基盤となる知識を修得した上で、安全で有効な薬物療法を主体的に計画、実施、評価、管理する能力を有する。(薬物療法における実践的能力)
 - ・情報を収集し提供する能力およびコミュニケーション能力を有し、医療機関や地域における医療チームに積極的に参画して薬剤師に求められる行動を適切にとることができる。(地域の保健・医療における実践的能力、チーム医療への参画、コミュニケーション能力)
 - ・薬学・医療の進歩に寄与するための研究を遂行する意欲、課題発見能力、問題解決能力を有する。(研究能力)
 - ・薬学・医療の進歩に対応するために、生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。(自己研鑽、教育能力)
 - ・グローバルな視点を持ち、国際社会に医療人として貢献できる能力を有する。(グローバル)
- と認められた者に対し、学士(薬学)の学位を授与します。

【薬学部薬科学科】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・薬学・生命科学分野の研究者・技術者に必要とされる豊かな人間性、高い倫理観、知性を有する。(研究者・技術者としての心構え)
 - ・化学物質の物理的および化学的性質・生体や環境との関わり、自然が生み出す薬物、および生体の成り立ちと機能について高度な知識を有する。(薬学の基礎知識)
 - ・医薬品の分析法・合成法・作用機序・体内動態についての高度な知識を有し、医薬品の探索から臨床試験に至る創薬過程を包括的に理解している。(医薬品の基礎知識)
 - ・薬学・生命科学分野の研究に必要な意欲、基本的知識と技能、および問題解決能力を有する。(研究能力)
 - ・課題発見能力とともに、情報を主体的に収集・活用・発信することができる。(情報収集・発信能力)
 - ・グローバルな視点を持ち、研究者・技術者として国際社会ならびに地域社会に貢献する能力を有する。(地域・グローバル)
 - ・薬学・生命科学の分野で生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。(自己研鑽・教育能力、研究能力)
- と認められた者に対し、学士(薬科学)の学位を授与します。

【情報データ科学部】

情報データ科学部で定める教育課程において所定の単位を取得し、以下の資質を身につけたと認められた者に対して学士(情報データ科学)の学位を授与する。

- ・情報データ科学分野に必要な基礎的知識を修得している。
- ・社会の諸課題を情報データ科学に基づき多角的に分析し、課題解決や価値創造を図るための論理的思考力を有している。
- ・情報データ科学的思考に基づくデザイン能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を修得している。
- ・情報データ科学者としての倫理とセキュリティ意識を有している。
- ・インフォメーションサイエンスコースでは、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク技術の基礎と応用力を、データサイエンスコースでは、統計およびデータサイエンスに関するデータ分析技術の基礎と応用力を有している。

【工学部】

工学部工学科に設けられた5つのコースで定める教育プログラムにおいて所定の単位を取得し、

- ・自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎学力を身につけている。

・それぞれの工学専門分野の基礎的な知識・技能を修得し、それらを活用することができる
・科学技術（工学技術）に広く関心をもち、それらを理解するため主体的に行動する志向を身につけている。
・科学技術に関する事項を的確に伝えることができるコミュニケーション能力を身につけている
・高い倫理観と安全意識、工学と社会との関わりを考慮しつつ人類社会の維持・持続的発展に寄与する志向を身につけている。
・各コースの学習・教育到達目標を達成している。
上記の資質を身につけたと認められた者に対して学士（工学）の学位を授与します。

（令和元年度以前の入学者）

工学部工学科に設けられた6つのコースで定める教育プログラムにおいて所定の単位を取得し、
・工学の全分野で共通に必要なとされる数学、物理学、化学などに関する基礎的知識を修得している。
・全ての工学分野を大局的に見渡す視野を身につけている。
・工学の各専門分野における諸問題の解決に向けて即応する実践力を有している。
・ものづくりの現場から研究開発にいたるまで、グローバルな環境で活躍するための外国語によるコミュニケーション能力を身につけている。
・工学上の諸問題を、他者と協働して地域や地球規模で解決できる課題解決能力と創造性を有している。
・技術者としての倫理と安全意識を身につけている。
・各コースの学修到達目標を達成している。
上記の資質を身につけたと認められた者に対して学士（工学）の学位を授与します。

【環境科学部】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、
・社会科学と自然科学に関する基礎的知識を修得している。
・自然環境メカニズムから社会システムにわたる多様な分野・領域において必要とされる汎用性の高い技能を身につけている。
・環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能を習得している。
・地球環境と社会の多様性について理解している。
・環境問題の解決のために主体性をもって他者と協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
・地域社会および将来世代の持続可能な発展に貢献できるグローバルな視点を身につけている。
・持続可能な地域社会および国際社会に貢献できる能力を身につけている。
・各コースの学修到達目標を達成している。
と認められた者に対し、学士（環境科学）の学位を授与します。

【水産学部】

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、
・海洋あるいは海洋に関連する産業等に接する機会を通じ、それらの現状、問題点、あるいは社会の要求について多面的に考える能力を有している。
・水産技術をはじめとする科学技術が社会及び自然に及ぼす影響・効果を理解し、これらの技術を将来扱う者としての責任を自覚できる能力を有している。
・数学及び自然科学に関する基礎的知識を習得し、それらを専門分野に応用できる能力を有している。
・水産生物資源に関する基礎、持続生産に関する基礎、水系－地球環境に関する基礎、水産物の利用に関する基礎的知識とそれらに応用できる能力を有している。

・ 4つの水産学の専門基礎分野（海洋生産管理学、海洋生物科学、海洋応用生物化学、海洋環境科学）の中で、いずれかの分野の専門技術に関する基礎的知識とそれらを応用できる能力を有している。

・ 水産業を取り巻く社会の要求に基づいた調査・研究の計画を企画・実行する基礎能力、協働・コミュニケーション能力、記述・発表能力を有している。
と認められた者に対し、学士（水産学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：長崎大学ホームページにより公表
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/pdf/policy/00.pdf>
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/philosophy/faculties/index.html>)

（概要）

【長崎大学のカリキュラム・ポリシー】

長崎大学の教育プログラムは、教養教育と専門教育で構成されます。

教養教育では、大学入学時までに培われてきた総合的な学力を前提に、教養基礎科目、モジュール科目、自由選択科目、また留学生にあつては留学生用科目を履修することで、社会に貢献できる市民として求められる多様な基礎的知識を学修し、自主的に考え発信する能力、論理的・批判的に物事を考える能力、日本語および英語によるコミュニケーションを行う能力、数量的スキル、情報リテラシーなどのいわゆる汎用的技能、ならびに継続的に学び自らを高め変革しようとする態度、他者と協調・協働して問題解決にあたる態度、自らに課せられた責任を全うする態度、グローバルかつ地域の視点から多様性を理解する態度・志向性を身につけます。

知識や理解、汎用的技能についてはそれぞれの授業において、態度・志向性については種々のアンケートやテストによって伸長の度合いを確認します。

専門教育では、教養教育で培われた力をさらに伸ばすとともに、専門的な知識・技能、高い倫理観、ならびにそれぞれの分野・領域に特有の汎用的技能、態度・志向性を身につけます。

授業は講義、演習、実験、実習等の形式で行われます。授業には学生の主体性や協働性を涵養するようアクティブ・ラーニングを促す手法や少人数による教育を積極的に取り入れます。

授業の成績評価は、定期試験の結果やレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

すべての授業科目で、学生が自らの学修の振り返りを行うための授業アンケートを実施します。このアンケートはそれぞれの授業改善のためにも活用されます。さらに、入学時、卒業時の意識調査や学修行動調査等を実施することで学生の学修達成状況を把握し、その結果を大学教育の常なる改善に役立てます。

学生は学修ポートフォリオシステムに自らの学修成果を随時蓄積します。学修ポートフォリオを振り返ることで自らの成長の軌跡を確認することができます。また、学修ポートフォリオはメンター教員による学生への指導・助言の資料として利用されます。さらに、卒業時には大学における学修成果の総合評価のための資料としても活用されます。

【多文化社会学部】

多文化社会学部の教育プログラムは、既存の人文社会系の学問分野をグローバル化時代の多文化社会という視点から俯瞰するとともに、分野の境界を越えた知の枠組みの再編を、具体的な事例に即して経験することを目的としています。人文社会系の学問分野における専門知識の修得を担保しつつ、グローバル人材としての高度な外国語の運用能力・コミュニケーション能力と、ジェネリックスキルの涵養に重点を置いたプログラムを構築します。また、教室やキャンパスにとどまらず、国内外の様々な出来事の現場で行動し発信することで、知識をグローバル社会の現実に結びつける経験を獲得することを目指します。

多文化社会学部では、社会的・文化的・言語的多様性の観点から、既存の人文社会系の学問分野を横断的に再編し、以下の5つのコースを新たな教育の領域として設定しています。

「国際公共政策コース」では、法学、政治学、経済学など社会科学の学問領域を中心として、紛争や軍縮、人権侵害、貧困や開発、法の支配、保健・衛生といった、国際社会が抱える様々な政策課題を学びます。

「社会動態コース」では、社会学、文化人類学、歴史学の学問領域を中心として、グローバルとローカルが交錯し合う現代社会の在り方を学びます。

「共生文化コース」では、思想、文化表象、宗教、歴史、メディアに焦点を当て、異なる文化だけではなく自らの文化を相対化して理解し、他者との共生をより豊かなものにするための人間観、文化理解を探究します。

「言語コミュニケーションコース」では、英語学、日本語学、比較・対照言語学、異文化コミュニケーションに焦点を当てた学びを通じて、多文化社会における言語の個別性と普遍性及び言語と文化の関わりを学びます。

「オランダ特別コース」では、オランダに焦点を当てた学びを通じて、多文化社会であるヨーロッパ全体を俯瞰する視点を磨くとともに、現代オランダの社会制度から日本の近未来の課題を考察します。

教育目的を達成するために、以下の科目群を設定します。

・入門科目では、世界の諸地域に生起する多文化社会の諸問題に関する基礎的知識・分析手法、並びに外国語や調査技法の基礎を習得します。さらに自らのキャリアを主体的に構想するための実践的能力を獲得します。

学習の到達度は、主に筆記試験やレポートを通じて評価します。

・専門基礎科目では、多文化社会の今日的な課題とその背景を理解するために必要な専門分野の基礎知識・分析手法及び調査技法を習得するとともに、総合的な外国語運用力を高めます。

学習の到達度は、主に筆記試験やレポート、プレゼンテーションを通じて評価します。

・専門科目では、各専門分野の高度な専門的知識・分析手法を習得するとともに、外国語で発信できる高度な言語運用能力を獲得します。さらに、多文化社会に対する深い洞察力を有し、多様な主体と協働・連携しながら諸問題を実践的に解決していくための調査技法を身につけます。

学習の到達度は、主に筆記試験やレポート、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。

・発展的専門科目では、これまでに習得した高度な専門知識・外国語の運用能力及び分析手法を基に、課題探究・問題解決能力を獲得し、自ら立てた問いを学術的に探究し発表する能力を身につけます。

学習の到達度は、研究内容に関する卒業研究論文及び特別研究論文を通じて評価します。

・海外留学を必須として、グローバル人材に不可欠な主体性をもって学び、考え、主張し、実践的に行動できる素養を身につけます。

学習の到達度は、留学中の学習内容や実習内容を通じて評価します。

【教育学部】

・入門科目で、幼児・児童・生徒の成長と発達について理解し、発達段階に応じた適切な指導を学びます。

・基礎科目で、各専攻の教職や教科に関する専門的知識・技能を身につけます。

・発展科目で、それぞれの専門性をさらに深めつつ、教育実地研究・実習を行い、自らの資質と教育実践力の向上を図ります。

・探究科目で、現代の教育課題に対応できる深い専門的能力を身につけます。

・これらに加え以下の通り、各コース・専攻それぞれに特徴的な専門的知識や技能を身につけます。

小学校教育コースでは、児童生徒理解、小学校教科教育、グローバル化および情報化に関する専門的知識や技能を身につけます。

中学校教育コース

国語専攻では、国語学、国文学、漢文学、国語科教育、書写書道に係る国語科の専門的知識・技能を習得し、母語としての国語の運用能力に優れ、思考・伝達の手段としての

国語の重要性をよく認識した国語科の教員にふさわしい資質・能力を身につけます。社会専攻では、歴史学、地理学、法律学、政治学、経済学、社会学、哲学、倫理学、社会科教育学に関係する専門的知識や技能を習得し、社会系教科の教員に必要な資質・能力を身につけます。

数学専攻では、中学校・高等学校の数学教師にふさわしい人間性と、代数、幾何、解析、確率統計、コンピュータおよび数学教育の6領域に関する専門的知識や技能を身につけます。理科専攻では、物理学、化学、生物学、地学、および理科教育の学修と研究を通して、理科の教員に必要な専門的知識や技能を身につけます。

保健体育専攻では、保健体育教科に関する専門教育科目および教科教育法で、前記のカリキュラム・ポリシーの上から4つの項目を横断的・総合的に捉え、体育・スポーツ科学に関する基礎的な知識、質の高い実践能力と豊かな専門性を身につけます。

英語専攻では、英語の実践的な運用力を高めるとともに、言葉と異文化への関心を深めるような言語教育を実践できる知識や技能を身につけます。

幼稚園教育コースでは、幼児教育の専門科目を深く学び、質の高い保育・教育を実践できる専門性を身につけます。

特別支援教育コースでは、特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）、特別支援学級および通常学級における障害のある児童・生徒の教育・支援を、障害児の教育学、生理・病理学、心理学の各領域から学び、実践力を高めるための専門的知識や技能を身につけます。

【経済学部】

- ・基礎から応用へ体系的かつ段階的な学修が可能となるような科目配置を行います。
- ・現代経済社会に関する幅広い学問領域の基礎的知識を修得できるような多様な科目を提供します。
- ・職場の実践的課題に対する問題解決能力や生涯学習の能力を身につけるための少人数教育を実践します。
- ・4年にわたる演習科目により、自分の考えを論理的に伝え討議でき、幅広い知識と応用分析能力により、問題解決と新たな価値創造を行える能力を養います。
- ・入門科目で経済、経営に関する学問分野の概要を学びます。
- ・専門基礎科目で、現代経済社会に関する基礎的知識を修得します。
- ・各学修到達目標を達成するために、専門科目で、経済と政策、グローバル経済、ファイナンス、経営と会計の各コースにおける専門的な知識を学びます。
- ・発展的専門科目で、各コースにおける、より専門的な知識とその応用について学びます。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果やレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

【医学部医学科】

全ての科目で、全てのディプロマ・ポリシーを、学年を経るごとに、基本的なレベルから高度なレベルまで段階的に学びます。

・入門科目で、医学に関連する基礎的知識や長崎大学医学部医学科の歴史などを学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。

・専門基礎科目で、卒業時学修成果を達成するためにディプロマ・ポリシーに示す基本的知識・技能・態度を学びます。

学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。

・専門科目で、卒業時学修成果を達成するためにディプロマ・ポリシーに示す高度な知識・技能・態度を学びます。

・学修の到達度は、主に筆記試験やレポート、シミュレーションテスト、観察記録などにより評価します。

・発展的専門科目で、学修成果を達成するためにディプロマ・ポリシーに示す、知識・技能・態度の統合的実践能力を養います。学修の到達度は、主に授業への参加度や実地試験、振り返り、レポート、観察記録などにより評価します。

- ・他専攻との共修科目により、医療・保健・福祉の多職種連携・協働のあり方を学ぶとともに、必要な協調性やリーダーシップを養います。学修の到達度は、主に観察記録やレポートを通して評価します。
- ・医と社会について学ぶ科目により、医療・保健・福祉と社会の関係や倫理観、良好なコミュニケーションの構築などについて主体的に考える力を養います。学修の到達度は、主に授業への参加度により評価します。
- ・地域医療や国際社会に関する科目により、グローバルな視点、地域社会および国際社会に貢献できる能力を養います。学修の到達度は、主に授業への参加度やレポート、観察記録、実地試験により評価します。

【医学部保健学科】

- ・入門科目で、看護学・理学療法学・作業療法学の各専攻における解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識を学びます。
 - ・専門基礎科目で、各専攻における看護・理学療法・作業療法を実践するための基本的技術を学びます。
 - ・専門科目で、各専門領域の知識、技術をさらに専門的に学び、実践的な学修を行うとともに、高い倫理観と他者に共感できる心を養います。
 - ・発展的専門科目で、それぞれの専門性をさらに深めるべく総合的な実習を行うとともに、科学的な研究法を学びます。
 - ・他専攻や医学科との共修科目により、医療・保健・福祉の連携・協働のあり方を学ぶとともに、必要な協調性やリーダーシップを養います。
 - ・医療と社会について学ぶ科目により、保健医療と社会の関係について主体的に考える力を養います。
 - ・国際社会と保健医療に関する科目により、グローバルな視点、地域社会および国際社会に貢献できる能力を養います。
- 専攻ごとのカリキュラム・ポリシーを以下に示します。
- (看護学専攻のカリキュラム・ポリシー)
- ・入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、医療専門職としての態度と多職種と協働する看護師の役割について学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
 - ・専門基礎科目で、看護の対象と看護実践のための基礎的知識と技術を学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
 - ・専門科目で、母性、成人、小児、精神、老年の各領域において臨地実習を行い、具体的な看護実践について学ぶとともに、高い倫理観と他者に共感できる心を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
 - ・発展的専門科目で、障害を持ちながら在宅で生活する療養者や家族への看護や、多職種と協働する中での看護の役割について学び研究を行います。また、地球規模および地方・地域の双方の視点から、人々の健康水準向上について学び、研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
 - ・他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。
- (理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー)
- ・入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、健康や障害に関する基本的知識や現在の社会的課題について学び、リハビリテーションや理学療法の役割や意義について理解します。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
 - ・専門基礎科目で、理学療法の対象となる疾患や障害の病態や医学的治療、一般的なリハビリテーションについて学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
 - ・専門科目で、理学療法で行う検査・測定や治療の理論と基本的な技術を学びます。そし

て、臨床実習を通じて検査・測定や治療計画の立案などを体験し、これまでの学修内容を統合します。あわせて、医療人として必要な倫理観を養い、理学療法士としての資質を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。

・発展的専門科目で、障害者や高齢者に対する理学療法やその家族への支援のあり方について学びます。また、多職種と協働して行うチーム医療における理学療法の役割について学びます。さらに、理学療法に関する研究方法論を学び、理学療法分野に関連する先端的な研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。

・他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。

(作業療法学専攻のカリキュラム・ポリシー)

・入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、人間・環境・健康・リハビリテーションについての知識を深め、医療専門職としての態度と他職種と協働する作業療法士の役割について学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。

・専門基礎科目で、作業療法の対象と作業療法実践のための基礎的知識と技術を学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。

・専門科目で、身体障害者、精神障害者、高齢者、障害児を対象とした臨床実習を行い、具体的な作業療法実践について学ぶとともに、医療人としての倫理観を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。

・発展的専門科目で、障害を持ちながら在宅で生活する障害者や家族への作業療法や支援、他職種と協働する中での作業療法の役割について学び研究を行います。また、作業療法に関する先端的な研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。

・他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。

【歯学部】

(一般コース)

・入門科目で歯科口腔医学の概論を学び、歯学生としての自覚を涵養します。

・専門基礎科目で歯科医師として必要な全身の医学および歯科口腔医学の基礎的知識と技能を学びます。

・専門科目で歯科医師として必要な歯科口腔医学に関する臨床的知識と基本的技能を学びます。

・発展的専門科目では、先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を修得すべく診療参加型臨床実習を行います。さらにこの臨床実習を通じて歯科医師として豊かな人間性と倫理観、責任感、社会性、ならびにコミュニケーション能力を涵養します。

・アクティブ・ラーニングを取り入れた科目により、問題発見・解決能力そしてリサーチマインドを養います。

・離島歯科医療・地域保健・福祉実習により、保健・医療・福祉の側面から総合的に実践する地域歯科医療と多職種連携によるチーム医療を学びます。

・英語に関連する科目により、英語によるコミュニケーション能力と国際社会に貢献できる意志を涵養します。

(歯学研究コース)

一般コースに以下を加える。

・基礎歯学研究の基礎知識・基本技能を学びます。

・臨床歯学研究の基礎知識・基本技能を学びます。

- ・研究者倫理を学びます。

授業の成績評価は、定期試験の結果やレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

【薬学部】

(薬学科)

- ・文部科学省薬学教育コア・カリキュラムに基づきカリキュラムを編成しています。
- ・入門科目では、薬学全般の基本的知識と薬局病院見学などで薬剤師の業務について学びます。評価は主にレポートによって行います。
- ・専門基礎科目では、物理化学、分析化学、有機化学、生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識と共に、薬用植物学、衛生薬学、薬剤学、薬理学、生理解剖学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに、専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方、方法、技能を習得するとともに、共用試験や薬局病院実習に向けて、実務に関連する知識や技能の習得のための実習を行います。評価は主に試験とレポートによって行います。
- ・専門科目では、生命科学や医薬品に関してより深く学ぶとともに、薬物治療学、生薬学、臨床検査学、医薬品評価学など薬学独自の高度な専門的知識を学びます。また、医療倫理、実践薬学、医療コミュニケーション、在宅医療実践学などの科目で、薬剤師として身につけるべき基本的知識と能力、技能、心構えを学び、病院や薬局での実務実習では、それまでに身につけてきた知識や技能を実践することで、薬剤師として求められる基本的な資質を身につけます。評価は主に試験、レポート、ポートフォリオなど多面的に行います。
- ・発展的科目の科学英語、医療実験計画法、医療薬学特別実習では、英語論文を読解し、実験計画を立て、研究を行い、結果を卒業論文としてまとめると同時に公開発表会で発表することで、論理的思考力、課題発見能力、および問題解決に向けた計画立案能力を養います。また、在宅医療実践学と医療薬学総合演習では薬剤師としての知識の総括を行い、高次臨床実務実習では、大学病院の病棟や外来での業務や、離島における医療連携について現場で学びます。これらを総合して生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を育成します。評価はセミナー発表、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

(薬科学科)

- ・入門科目では、薬学全般の基本的知識と製薬企業や研究所見学などで研究者・技術者の業務について学びます。評価は主にレポートによって行います。
- ・専門基礎科目では、物理化学、分析化学、有機化学、生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識とともに、薬用植物学、衛生薬学、薬剤学、薬理学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに、専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方、方法、技能を修得します。評価は主に試験とレポートによって行います。
- ・専門科目では、生命科学の基盤となる知識を深めるとともに、生物有機化学、分子生物学、天然物化学など、医薬品開発に必要な高度な専門的知識を学びます。また、薬物治療、薬物代謝、医療倫理、医薬品情報学など薬学独自の幅広い知識を修得します。評価は主に試験で行います。
- ・発展的科目の創薬科学では、それまでに身につけてきた知識を基盤として医薬品開発について総合的に学びます。また、科学英語、実験計画法、薬科学特別実習では、英語論文読解、実験計画立案、研究の実践、卒業論文作成、発表を通して論理的思考力、課題発見能力、および問題解決に向けた計画立案能力を養うことで、総合的に自己研鑽力と研究能力を育成します。評価は試験、セミナー発表、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

【情報データ科学部】

情報科学者として要求される課題解決能力、価値創造能力、コミュニケーション能力及び技術者倫理を身につけた人材を養成することを教育目標とし、この教育目標を達成するため、以下のとおり学士課程教育を行う。

- ・入門科目として、情報科学およびデータ科学の分野全体を俯瞰し、本カリキュラムの学習項目の概要と、それらの関連性を理解させるための概論的科目を置く。また、両コース共通の基盤となる基礎的知識と技能を修得させるため、代数学、解析学、統計学の基礎科目やプログラミングの導入科目を置く。現代の社会的課題に必要な知識や技能を自覚させ、自立的成長の志向性を涵養するためのPBL科目を置く。

- ・専門基礎科目として、情報科学が社会に及ぼす影響を総合的に理解させ、情報科学者としての倫理観や安全意識を涵養するための科目を置く。インフォメーションサイエンスコースでは、プログラミング、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワーク技術に関する基礎的知識・技能を学ばせるための基礎的な情報科学に関する講義科目、演習科目および実験科目を置く。データサイエンスコースでは、データ解析の基礎的知識・技能を学ばせるための、基礎的な統計学に関する講義科目と演習科目を置く。

- ・専門科目として、インフォメーションサイエンスコースでは、アルゴリズムの原理やプログラミングの知識とそれを応用して高度な情報システムを構築する能力を身につけさせるため、情報技術の実践や情報セキュリティに関する講義科目、演習科目および実験科目を置く。データサイエンスコースでは、高度なデータ処理分析の基盤となる能力を身につけさせるため、数理統計学、ビッグデータ分析、機械学習などに関する講義科目と演習科目を置く。

- ・発展科目として、インフォメーションサイエンスコースでは、与えられた制約の下で効率よく課題を解決する仕組みをハードウェアやソフトウェアのシステムとして設計・実装するための知識と技術を身につけるための高度な情報科学やその応用に関する専門科目を置く。

- ・データサイエンスコースでは、社会・観光情報学分野や医療・生命情報学分野などの具体的な応用分野における、多様なデータから情報を収集、整理・分析、加工・提示処理する技術と分野固有の知識を身につけさせる一連の科目を置く。

- ・卒業研究では、基礎研究・応用研究を遂行し、課題解決能力、課題探求能力、価値創造能力、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を伸ばす。

- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの総合的観点から行う。卒業研究の評価は、卒業論文並びにプレゼンテーションなどで行い、評価の結果、成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位を認定する。

【工学部】

(機械工学コース)

- ・入門科目で機械工学に関する力学およびコンピュータを用いた解析技術の基礎を講義や演習によって学びます。

- ・専門基礎科目で、基礎的な数学や4力学、加工技術など機械工学についての基礎を講義や実験、演習によって学びます。

- ・専門科目で、4力学の応用やデザイン能力を講義や実験、演習によって学びます。

- ・発展科目は、専門的知識を応用する能力を伸ばし、工学的知識に基づいてエネルギー問題などを学びます。

- ・卒業研究を行なうことで、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。

- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、卒業論文の内容および口頭試問などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(令和元年度以前の入学者)

(機械工学コース)

- ・入門科目で機械工学に関する力学およびコンピュータを用いた解析技術の基礎を講義や演習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、基礎的な数学や4力学、加工技術など機械工学についての基礎を講義や実験、演習によって学びます。
- ・専門科目で、4力学の応用やデザイン能力を講義や実験、演習によって学びます。
- ・発展科目は、専門的知識を応用する能力を伸ばし、工学的知識に基づいてエネルギー問題などを学びます。
- ・卒業研究を行なうことで、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、卒業論文の内容および口頭試問などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(電気電子工学コース)

- ・入門科目で、基礎的な数学、物理、情報技術および物理・化学実験により工学の基礎を学びます。
- ・専門基礎科目で、電気・電子・通信分野の基礎的な知識である数学、物理、電気回路および電気磁気学を学びます。
- ・専門科目で、電気・電子・通信分野の必修的な知識や技術を学びます。また、専門領域の技術者が遭遇する実際上の問題点や課題解決方法について学びます。
- ・発展科目では、それまでに修得した工学的かつ電気・電子・通信分野の基礎知識に基づいた各分野のさらなる応用的な知識および技術を学びます。
- ・卒業研究科目では、入門科目、専門基礎科目および専門科目で修得した知識や技術をもとに、主体的に研究に取り組み、問題解決を行います。また、その成果を、論文とプレゼンテーションにより発表を行います。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、提出された論文と発表会での口頭試問により、複数名の教員により行われます。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(情報工学コース)

- ・入門科目で、数学や自然科学の基礎的知識とともに、情報工学に関する基本的知識や現在の社会的課題について学び、情報技術の役割や意義について理解します。
- ・専門基礎科目で、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワーク技術に関する基礎的知識を学びます。
- ・専門科目で、アルゴリズムの原理やプログラミングの知識と、それを応用して複雑なソフトウェア・システムを構築する能力を身につけます。あわせて、情報工学が社会に及ぼす影響を総合的に理解し、情報技術者としての倫理観を養います。
- ・発展科目で、与えられた制約の下で効率よく問題を解決するハードウェアやソフトウェアのシステムを設計するための知識を身につけます。また、画像・音声・文字情報など多様な情報を処理する技術を学びます。
- ・卒業研究を行なうことで、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業やゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、卒業論文ならびにプレゼンテーションなどで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(構造工学コース)

- ・入門科目で、構造工学に関する数学や力学、およびコンピュータを用いた解析技術の基礎を、講義や演習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、計画・製図、各種力学など構造工学についての基礎を講義や実験、演習によって学びます。
- ・専門科目で、構造物に関する各種設計法を講義や実験、演習によって学びます。
- ・発展科目は、構造物に関する専門的知識を応用する能力を伸ばし、各種材料や施工法、および設計時に照査すべき重要事項を講義や演習によって学びます。
- ・卒業研究を行なうことで、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、全教員による J A B E E 学修・教育到達目標の達成度評価などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(社会環境デザイン工学コース)

- ・入門科目で、土木工学を学ぶための基礎となる数学、物理および技術英語などを講義や演習、実習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、三力学（構造力学、地盤力学および水理学）や測量学などの土木工学の基本となる技術を講義や演習、実習によって学びます。
- ・専門科目で、三力学や情報処理技術などの基礎技術の応用と実務への展開を講義や演習、実習によって学びます。
- ・発展科目で、コースが重視する「人と自然環境の共生」「社会基盤整備と管理」「地理空間情報を用いた防災・減災」の3テーマを中心に、より専門的な内容を講義や演習によって学びます。
- ・卒業研究関連科目で、最先端の研究に触れ、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、卒業論文ならびに口頭試問などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(化学・物質工学コース)

- ・入門科目で、化学・物質工学の技術者として必要な化学・数学・物理の基礎を講義および演習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、専門の基礎となる有機化学、無機化学、物理化学、生化学、固体化学、金属物理学、高分子科学などの化学・物質工学の基礎を、講義や演習、実験で学びます。
- ・専門科目で、専門基礎科目の応用に加え電気化学、固体物理学などを講義や演習、実験によって学びます。
- ・発展科目は、半導体や電気化学、合成化学、蛋白質工学など化学・物質工学分野の様々な応用科目を講義や演習によって学び、専門知識を応用する能力を身につけます。
- ・卒業研究を行う事で、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、研究活動の状況、試問、卒業論文の内容などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(電気電子工学コース)

- ・入門科目で、基礎的な数学、物理、情報技術および物理・化学実験により工学の基礎を学びます。
- ・専門基礎科目で、電気・電子・通信分野の基礎的な知識である数学、物理、電気回路および電気磁気学を学びます。
- ・専門科目で、電気・電子・通信分野の必修的な知識や技術を学びます。また、専門領域の技術者が遭遇する実際上の問題点や課題解決方法について学びます。
- ・発展科目では、それまでに修得した工学的かつ電気・電子・通信分野の基礎知識に基づいた各分野のさらなる応用的な知識および技術を学びます。
- ・卒業研究科目では、入門科目、専門基礎科目および専門科目で修得した知識や技術をもとに、主体的に研究に取り組み、問題解決を行います。また、その成果を、論文とプレゼンテーションにより発表を行います。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、提出された論文と発表会での口頭試問により、複数名の教員により行われます。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(構造工学コース)

- ・入門科目で、構造工学に関する数学や力学、およびコンピュータを用いた解析技術の基礎を、講義や演習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、計画・製図、各種力学など構造工学についての基礎を講義や実験、演習によって学びます。
- ・専門科目で、構造物に関する各種設計法を講義や実験、演習によって学びます。
- ・発展科目は、構造物に関する専門的知識を応用する能力を伸ばし、各種材料や施工法、および設計時に照査すべき重要事項を講義や演習によって学びます。
- ・卒業研究を行なうことで、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、全教員による J A B E E 学修・教育到達目標の達成度評価などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(社会環境デザイン工学コース)

- ・入門科目で、土木工学を学ぶための基礎となる数学、物理および技術英語などを講義や演習、実習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、三力学（構造力学、地盤力学および水理学）や測量学などの土木工学の基本となる技術を講義や演習、実習によって学びます。
- ・専門科目で、三力学や情報処理技術などの基礎技術の応用と実務への展開を講義や演習、実習によって学びます。
- ・発展科目で、コースが重視する「人と自然環境の共生」「社会基盤整備と管理」「地理空間情報を用いた防災・減災」の3テーマを中心に、より専門的な内容を講義や演習によって学びます。
- ・卒業研究関連科目で、最先端の研究に触れ、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、卒業論文ならびに口頭試問などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

(化学・物質工学コース)

- ・入門科目で、化学・物質工学の技術者として必要な化学・数学・物理の基礎を講義および演習によって学びます。
- ・専門基礎科目で、専門の基礎となる有機化学、無機化学、物理化学、生化学、固体化学、金属物理学、高分子科学などの化学・物質工学の基礎を、講義や演習、実験で学びます。
- ・専門科目で、専門基礎科目の応用に加え電気化学、固体物理学などを講義や演習、実験によって学びます。
- ・発展科目は、半導体や電気化学、合成化学、蛋白質工学など化学・物質工学分野の様々な応用科目を講義や演習によって学び、専門知識を応用する能力を身につけます。
- ・卒業研究を行う事で、世界的に最先端の研究を体験・修得し、課題解決能力・課題探求能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を伸ばします。
- ・授業の成績評価は、定期試験の結果、レポート、課題、ディスカッション、プレゼンテーションの成果、授業・ゼミナールへ取り組む意欲・態度などの観点から行います。卒業研究の評価は、研究活動の状況、試問、卒業論文の内容などで行います。評価の結果、学修成果が一定の水準に達したと担当教員が認めた場合に単位が認定されます。

【環境科学部】

(環境政策コース)

- ・文理共通の入門科目で、地球環境および地域環境、フィールド調査・観測に関する基礎的知識を学びます。学修の到達度は、主にレポートおよび筆記試験により評価します。
- ・専門基礎科目で、社会科学の基礎的知識、そしてそれらを環境問題へ応用するための基本的知識と技術について学びます。学修の到達度は、レポートおよび筆記試験、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
- ・専門科目で、人間社会環境、法制度、社会経済システム、環境計画に関する広範な専門的知識を学びます。また、キャリア形成に必要な実践的知識、国際・地域において活用できるコミュニケーション能力を実践的に学びます。さらに、コース横断的に環境保全設計コースの専門的知識も学びます。学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、およびプレゼンテーション、ディスカッションにより評価します。
- ・卒業研究において、専門性・学術性の高い知識と技能を学びます。学修の到達度は、主に卒業論文およびプレゼンテーションを通じて評価します。

(環境保全設計コース)

- ・文理共通の入門科目で、地球環境および地域環境、フィールド調査・観測に関する基礎的知識を学びます。学修の到達度は、主にレポートおよび筆記試験により評価します。
- ・専門基礎科目で、自然科学の基礎的知識、そしてそれらを環境問題へ応用するための基本的知識と技術について学びます。学修の到達度は、レポートおよび筆記試験、実験成果、プレゼンテーションを通じて評価します。
- ・専門科目で、地球科学、環境技術、生物多様性保全、生体影響に関する広範な専門的知識を学びます。また、キャリア形成に必要な実践的知識、国際・地域において活用できるコミュニケーション能力を実践的に学びます。さらに、コース横断的に環境政策コースの専門的知識も学びます。学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、およびプレゼンテーション、ディスカッションにより評価します。
- ・卒業研究において、専門性・学術性の高い知識と技能を学びます。学修の到達度は、主に卒業論文およびプレゼンテーションを通じて評価します。

【水産学部】

- ・入門科目では、社会について様々な視点から考える能力を養い、海洋生産管理学、海洋生物科学、海洋応用生物化学、海洋環境科学に関する概要を学びます。
- ・専門基礎科目では、数学および自然科学に関する基礎的知識や水産技術の歴史等とともに、それらの専門分野への応用について学びます。また、乗船実習を通じて、海洋および船舶に慣れ親しみ、協調性・寛容性を養います。

・専門科目では、4つのコースに分かれ、以下の専門知識・技術とそれらの応用について学びます。

海洋生産管理学に関連するものとして、海洋生物資源管理の基礎理論・解析手法・技術、有用資源の生産、加工、流通など

海洋生物科学に関連するものとして、海洋生物資源の維持管理、生態系保全、遺伝子資源の保護、水産生物の生産技術、資源培養技術など

海洋応用生物化学に関連するものとして、水産食品加工・栄養・衛生、機能性物質の利用、未利用資源の開発など

海洋環境科学に関連するものとして、海洋環境評価・保全、生物生産など

・発展科目では、水産科学の現状と問題点や、それに関連する科学技術が社会および自然に及ぼす影響と効果について学び、課題を解決するために必要な情報収集と研究計画の企画・実行能力を養います。

・実験・実習ならびに演習・卒業研究を通して、論理的な記述・発表能力や討論等のコミュニケーション能力、チームとして協働する能力を養います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：長崎大学ホームページにより公表

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/pdf/policy/00.pdf>

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/policy/policy.html>

及び入学者選抜要項（大綱）、学生募集要項）

（概要）

【全学共通のアドミッション・ポリシー】

長崎大学は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・専門的な知識や技術の習得に必要な知識・技能・理解の基礎が充実している。
- ・ものごとの本質を学修するために必要となる基礎的な論理的・批判的思考力、判断力がある。
- ・日本語・英語・その他の外国語で積極的にコミュニケーションを行おうとする姿勢とその基盤となる基礎的な言語運用力を持っている。
- ・自ら考えようとする態度がある。
- ・自らを高めるために継続的に学ぼうとする態度・意欲がある。
- ・多様性を認め、他者と協働しようとする態度がある。
- ・国際社会、地域社会への関心を持っている。

本学では、これらの資質・素養を大学入学共通テスト、個別試験、調査書、小論文・課題論文、実技、面接等により総合的に評価し、入学者の選抜を行います。

【多文化社会学部のアドミッション・ポリシー】

多文化社会学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される論理的批判的思考力・判断力・表現力を評価します。

また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては英語を主とした外国語の運用能力と、多文化状況や異文化への興味・関心、学ぶことへの意欲も重視します。

多文化社会学部は、入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している。
共通テストの「外国語」の配分、外国語（英語）検定試験の結果の活用、前期日程における個別学力検査「外国語」、外国語（英語）を用いた面接
- ・世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲がある。
総合型選抜Ⅰにおける筆記試験
- ・世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる。
後期日程における小論文

- ・世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる。

前期日程における総合問題

【教育学部のアドミッション・ポリシー】

教育学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・専門科目の学修の基盤となる高等学校卒業程度の知識・技能・理解が充実している。
- ・専門的な学修に必要な基礎的な論理的・批判的思考力や判断力、表現力がある。
- ・児童・生徒および保護者、同僚その他の人々との良好な対人関係を構築するために必要な非言語的要素を含むコミュニケーション能力がある。
- ・主体的に学修を継続し、発展させようとする意欲と態度がある。
- ・現代の教育課題への関心を持ち、教職を志望している。

【経済学部のアドミッション・ポリシー】

経済学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・基礎的学力が身についている。
- ・論理的思考力が身についている。
- ・英語を含むコミュニケーション力が身についている。
- ・強い学習意欲、主体性や行動力がある。

【医学部（医学科）のアドミッション・ポリシー】

医学科では入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
医学に関する専門的知識を修得するために必要な科学的素養を広く有する。
専門的情報を収集・理解する上で必要な日本語および英語の読解力・表現力を有する。
- ・医学・医療分野の職業に生涯にわたり従事するというプロフェッショナルリズムを認知して、強い目的意識と高い志を持つ。また、その実践のために必要な思考力、判断力を有する。
- ・生命の尊厳を重んじ、高い倫理観と豊かな人間性を持つ。
- ・チーム医療への貢献のために必要な協調性、コミュニケーション能力、リーダーシップと強い責任感を有する。
- ・広く生命科学分野への探求心を有し、さらに、社会的諸問題や国際問題などへのグローバルな問題意識を常に持つ。
- ・地域社会における問題点解決に取り組む積極性を有する。

【医学部（保健学科）のアドミッション・ポリシー】

保健学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・専門科目の学修の基盤となる高等学校卒業程度の知識・技能・理解が充実している。
- ・対人関係を構築するために必要なコミュニケーション能力がある。
実習では患者さんやその家族との間に良好な信頼関係を構築する必要があることから、非言語的要素を含むコミュニケーション能力を重視します。そのため全ての入学試験に面接を課します。
- ・専門的な学修に必要な基礎的な論理的・批判的思考力や判断力、表現力がある。
- ・主体的に学修を継続する態度と意欲がある。
- ・基礎的な倫理性と、他者への共感性や協調性、リーダーシップを持つ。
- ・国際社会や地域社会における保健への関心がある。
- ・国際的な学術文献の講読に必要な基本的な英語読解力がある。

最新の科学的根拠を収集するために必要な英語読解力の基礎が養われていることを重視します。そのため前期日程と外国人留学生入試では個別試験で英語、後期日程、学校推薦型選抜Ⅱ及び社会人入試では小論文で英語の問題を課します。

【歯学部のアドミッション・ポリシー】

【一般コース】

歯学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・専門科目の修学に要する基礎学力を有している。
- ・専門科目の修学に要する思考力、判断力、表現力を有している。
- ・歯科口腔医学、歯科口腔医療に対する強い関心と明確な目的意識ならびに使命感を持っている。
- ・主体性を持って学ぶ態度と多様な人々と協働するコミュニケーション能力を有している。

【歯学研究コース】

一般コースに加え、以下の資質・素養を求めます。

- ・将来我が国の最先端歯科口腔医療、歯科口腔医学または歯科口腔医学教育を担うことを目指し、本学部卒業後、大学院医歯薬学総合研究科（歯学系）に進学するための、歯学研究コースを履修することを確約し、遂行する強い意思を持っている。

【薬学部のアドミッション・ポリシー】

<薬学科（6年制）>

薬学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・幅広い知識と十分な基礎学力がある。
- ・専門的な学修に必要な数学と理科の学力が優れている。
- ・英語論文の読解・解説をはじめ、グローバルな視点を持って社会に貢献するために必要な英語の学力が優れている。
- ・論理的な思考能力や問題解決能力を持つ。
- ・協調性やコミュニケーション能力を持つ。
- ・薬学、生命科学に高い関心があり、研究や持続的な学修への意欲を持つ。

<薬科学科（4年制）>

薬科学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・幅広い知識と十分な基礎学力がある。
- ・専門的な学修に必要な数学と理科の学力が優れている。
- ・英語論文の読解・解説をはじめ、グローバルな視点を持って社会に貢献するために必要な英語の学力が優れている。
- ・論理的な思考能力や問題解決能力を持つ。
- ・積極的な自己表現力や行動力を持つ。
- ・薬学、生命科学に高い関心があり、研究や持続的な学修への意欲を持つ。

【情報データ科学部のアドミッション・ポリシー】

情報データ科学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・情報の収集、伝達、整理・分析、加工・提示に関する基礎的な知識または技能を有する。
- ・専門的な学修に必要な高校程度の数学、理科および英語の基礎学力を有し、科学的な思考・判断・表現に応用できる。
- ・知識とデータに基づく推論がさまざまな課題解決や新たな価値の創出に活かされることを理解している。
- ・自ら学びを深めようとする姿勢と行動力を備え、多様な人々と協力して文系・理系の枠を超えた課題に取り組める。

【工学部のアドミッション・ポリシー】

工学部は、入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・数学、理科、英語の基礎学力を有している。
- ・論理的思考力や読解力を有している。

- ・工学に強い関心を持ち、主体的に学修を継続する強い意志と実行力がある。
- ・協調性やコミュニケーション能力がある。

【環境科学部のアドミッション・ポリシー】

環境科学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・多様な環境科学を学修する基盤となる高等学校卒業程度の知識・技能・理解が充実している。
このため、大学入学共通テストでは幅広い科目に対して配点しています。前期日程試験の選抜方法A（文系受験）では国語、選抜方法B（理系受験）では理科の配点を高くしています。
- ・学修・研究に必要となる基本的な英語能力がある。
前期日程の選抜方法A（文系受験）の個別学力検査で英語を課し、選抜方法B（理系受験）では英語を選択可能な科目として位置づけています。
- ・環境科学を専門的に学修するために必要となる判断力や思考力を有する。
後期日程試験では、小論文試験でこれらの資質を評価します。
- ・環境をめぐる諸問題に強い関心を持ち、環境科学を学ぶ意欲にあふれ、主体的に学修を継続する姿勢がある。
このため、前期日程ではペーパー・インタビューで、後期日程や学校推薦型選抜、外国人留学生入試等では面接で、これらの資質・素養を評価します。

【水産学部のアドミッション・ポリシー】

水産学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・海洋環境、海洋生物に代表される水圏と社会の関わりに強い関心を持っている。
- ・将来、水産・海洋研究の発展に貢献し、国際的な視野で活躍するために必要となる幅広い内容に柔軟に対応できる問題解決能力を有している。
- ・将来、国内外の第一線で活躍し各分野のリーダーになれるような自主的、主体的学修・研究姿勢を有している。
- ・知識偏重ではなく、将来、実社会で活躍できる論理的思考能力を有している。
- ・諸課題を解決するために必要な基礎的知識や技能を習得している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：長崎大学ホームページにより公表
<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/edu/#03>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|---|--------|---|------|-----|------|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 10人 | — | | | | | 10人 |
| 水産学部 | — | 1人 | 3人 | 0人 | 4人 | 0人 | 8人 |
| 附属病院 | — | 16人 | 18人 | 54人 | 179人 | 29人 | 296人 |
| 附置研究所 | — | 28人 | 10人 | 2人 | 50人 | 0人 | 90人 |
| その他 | — | 265人 | 268人 | 18人 | 186人 | 1人 | 738人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 531人 | | | | | 531人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法：長崎大学ホームページ「研究者情報」 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/gakusai/info/ | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| <p>本学では、第3期中期計画として「教育の質の向上に向け、PDCA サイクルによる組織的な教育を実践するため、学修達成度や学生による授業評価等の経年分析に基づいて、評価の高い授業の実践事例報告を行うなどカリキュラムや授業改善に直結するFDを実施し、授業担当専任教員の75%以上を参加させる。」を掲げ、毎年、計画的にFDを実施しており、学部教育に携わる教員のFDへの参加状況は、H29:83.08%、H30:86.49%、R1:89.37%、R2:89.85%と目標値である75%以上の参加率となっている。</p> | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 多文化社会学部 | 100人 | 107人 | 107.0% | 400人 | 454人 | 113.5% | | |
| 教育学部 | 180人 | 180人 | 100.0% | 840人 | 857人 | 102.0% | | |
| 経済学部 | 325人 | 325人 | 100.0% | 1,330人 | 1,432人 | 107.7% | 15人 | 14人 |
| 医学部 | 226人 | 229人 | 101.3% | 1,187人 | 1,197人 | 100.8% | 15人 | 5人 |
| 歯学部 | 50人 | 50人 | 100.0% | 300人 | 311人 | 103.7% | | |
| 薬学部 | 80人 | 80人 | 100.0% | 400人 | 423人 | 105.8% | | |
| 情報データ科学部 | 110人 | 111人 | 100.9% | 220人 | 226人 | 102.7% | | |
| 工学部 | 330人 | 333人 | 100.9% | 1,420人 | 1,530人 | 107.7% | | |
| 環境科学部 | 130人 | 130人 | 100.0% | 530人 | 570人 | 107.5% | 5人 | 4人 |
| 水産学部 | 110人 | 115人 | 104.5% | 440人 | 475人 | 108.0% | | |
| 合計 | 1,641人 | 1,660人 | 101.2% | 7,067人 | 7,475人 | 105.8% | 35人 | 23人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数 | | | | |
|--|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 学部等名 | 卒業生数 | 就職者数 | | |
| | | 進学者数 | (自営業を含む。) | その他 |
| 多文化社会学部 | 96人 (100%) | 7人 (7.3%) | 80人 (83.3%) | 9人 (9.4%) |
| 教育学部 | 247人 (100%) | 14人 (5.7%) | 228人 (92.3%) | 5人 (2.0%) |
| 経済学部(昼間) | 262人 (100%) | 2人 (0.8%) | 233人 (88.9%) | 27人 (10.3%) |
| 経済学部(夜間) | 55人 (100%) | 0人 (0.0%) | 43人 (78.2%) | 12人 (21.8%) |
| 医学部(医学科) | 117人 (100%) | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) | 117人 (100%) |
| 医学部(保健学科) | 104人 (100%) | 24人 (23.1%) | 76人 (73.1%) | 4人 (3.8%) |
| 歯学部 | 46人 (100%) | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) | 46人 (100%) |
| 薬学部(薬学科) | 35人 (100%) | 1人 (2.9%) | 32人 (91.4%) | 2人 (5.7%) |
| 薬学部(薬科学科) | 41人 (100%) | 36人 (87.8%) | 5人 (12.2%) | 0人 (0.0%) |
| 工学部 | 360人 (100%) | 211人 (58.6%) | 138人 (38.3%) | 11人 (3.1%) |
| 環境科学部 | 138人 (100%) | 20人 (14.5%) | 104人 (75.4%) | 14人 (10.1%) |
| 水産学部 | 113人 (100%) | 50人 (44.2%) | 55人 (48.7%) | 8人 (7.1%) |
| 合計 | 1,614人 (100%) | 365人 (22.6%) | 994人 (61.6%) | 255人 (15.8%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| 【主な進学先】 長崎大学大学院、九州大学大学院、広島大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、名古屋大学大学院、東京大学大学院、東京海洋大学大学院、東京学芸大学大学院 など | | | | |
| 【主な就職先】 長崎大学、長崎県庁、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、十八親和銀行、長崎市役所、スズキ、西日本シティ銀行、福岡国税局、日本調剤、三菱電機、九州電力、日本赤十字社長崎原爆病院、佐賀県庁、富士電機、パナソニック、福岡市役所、北九州市役所、一条工務店、トヨタ自動車九州、九州大学、春回会長崎北病院、日本電気、大島造船所、福岡銀行、トヨタ自動車、マツダ、積水ハウス、清水建設、国家公務員共済組合連合会浜の町病院、竹中工務店、長崎県警察、東ソー、再春館製薬所、日本精工、三菱電機エンジニアリング、YKKAP、チューリッヒ保険、日本生命保険、光善会長崎百合野病院、西日本電信電話、福岡労働局、長崎市消防局、フォーシーズ、山口県庁、スタンレー電気、ワールドインテック、楽天カード、フジタ、京セラ、住友大阪セメント、大分県庁、オリックス生命保険、長崎県立学校、佐賀県立学校、福岡県立学校 など | | | | |
| (備考) | | | | |

| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業生数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
|---------|------------------|-------------------|-----------------|---------------|--------------|
| 多文化社会学部 | 104人 (100%) | 65人 (62.5%) | 35人 (33.7%) | 4人 (3.8%) | |
| 教育学部 | 243人 (100%) | 226人 (93.0%) | 13人 (5.4%) | 4人 (1.6%) | |
| 経済学部 | 343人 (100%) | 264人 (77.0%) | 62人 (18.0%) | 17人 (5.0%) | |
| 医学部医学科 | 116人 (100%) | 94人 (81.0%) | 19人 (16.4%) | 3人 (2.6%) | |
| 医学部保健学科 | 106人 (100%) | 96人 (90.6%) | 5人 (4.7%) | 5人 (4.7%) | |
| 歯学部 | 50人 (100%) | 38人 (76.0%) | 11人 (22.0%) | 1人 (2.0%) | |
| 薬学部薬学科 | 41人 (100%) | 32人 (78.0%) | 7人 (17.1%) | 2人 (4.9%) | |
| 薬学部薬科学科 | 41人 (100%) | 36人 (87.8%) | 3人 (7.3%) | 2人 (4.9%) | |
| 工学部 | 394人 (100%) | 318人 (80.7%) | 53人 (13.5%) | 23人 (5.8%) | |
| 環境科学部 | 132人 (100%) | 115人 (87.1%) | 15人 (11.4%) | 2人 (1.5%) | |
| 水産学部 | 114人 (100%) | 101人 (88.6%) | 10人 (8.8%) | 3人 (2.6%) | |
| 合計 | 1,684人 (100%) | 1,385人 (82.3%) | 233人 (13.8%) | 66人 (3.9%) | 0人 (0.0%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| | |
|------------------|---------------------|
| (概要) | |
| ・授業計画（シラバス）の作成過程 | ・公表時期（2021年度スケジュール） |
| 2月1日（月） | 各科目担当教員へシラバス作成依頼 |
| 2月1日（月）～2月26日（金） | シラバス作成期間 |
| 3月9日（火） | 担当教員の最終チェック締切 |
| 3月17日（水） | 最終確定 |
| 3月19日（金） | 公表開始 |

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| |
|--|
| (概要) |
| 学修の成果に係る評価については、授業計画（シラバス）の必須記載項目である「授業到達目標」及び「身につけてほしい力」に関して、同授業計画（シラバス）において評価方法及び基準を定めている。また、成績評価ガイドラインにおいて、GPAの算出に必要な評価（AA～D）の基準を定めている。 |
| 卒業又は修了の認定に当たっての基準については、下記のとおりディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにより公表し、適切に実施している。 |

長崎大学のディプロマ・ポリシー
 長崎大学は、4年間あるいは6年間の教育プログラムに定められた単位を修得し、
 ・自ら学び、考え、主張し、行動することができる。
 ・分野・領域を超えて活用できる汎用可能な技能を身につけている。
 ・専門職業人や研究者としての基盤的知識・技能を習得し、高い倫理観を身につけている。
 ・地球環境と社会の多様性を理解している。
 ・主体性をもって他者と協働できる。
 ・地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている。
 と認められた者に対し、学位(学士)を授与します。

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要な単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|----------------------------|--------------------|--|----------------------|---|
| 多文化社会学部 | 多文化社会学科 | 126 単位 | 有 | 48 単位 (全学年) |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 124～144 単位 | 有 | 50 単位 (全学年) |
| 経済学部 | 総合経済学科 (昼間コース) | 126 単位 | 有 | 48 単位 (全学年) |
| 経済学部 | 総合経済学科 (夜間主コース) | 124 単位 | 有 | 48 単位 (1、2 年) 50 単位 (3、4 年) |
| 医学部 | 医学科 | 235.5～239.5 単位 | 有 | 61 単位 (1 年) 60 単位 (2 年) |
| 医学部 | 保健学科 | 124～127 単位 | 有 | 54 単位 (1 年) 60 単位 (2 年) |
| 歯学部 | 歯学科 | 209.5 単位 | 有 | 教養教育のみ 30 単位 (1、2 年) 2 単位 (3 年) |
| 薬学部 | 薬学科 | 190 単位 | 有 | 52 単位 (1 年)、 51 単位 (2 年)、 42 単位 (3、4 年) |
| 薬学部 | 薬科学科 | 128 単位 | 有 | 50 単位 (1 年)、 51 単位 (2 年)、 42 単位 (3、4 年) |
| 情報データ科学部 | 情報データ科学科 | 126 単位 | 有 | 50 単位 (全学年) |
| 工学部 | 工学科 | 126 単位 | 有 | 48 単位 (全学年) |
| 環境科学部 | 環境科学科 | 124 単位 | 有 | 49 単位 (1 年)、 44 単位 (2、3、4 年) |
| 水産学部 | 水産学科 | 125 単位 | 有 | 46 単位 (全学年) |
| GPAの活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法：各学部の学生便覧等で公表 | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法：大学教育イノベーションセンターホームページ (学内専用)により公表 http://www9.innov.nagasaki-u.ac.jp/student/sum_sheet2019.html | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|----------|--------------------|-------------|----------|----------|-----------------------|
| 多文化社会学部 | 多文化社会学科 | 535,800円 | 282,000円 | 70,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 535,800円 | 282,000円 | 70,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 経済学部 | 総合経済学科 (昼間コース) | 535,800円 | 282,000円 | 70,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| | 総合経済学科 (夜間主コース) | 267,900円 | 141,000円 | 70,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 医学部 | 医学科 | 535,800円 | 282,000円 | 110,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| | 保健学科 | 535,800円 | 282,000円 | 70,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 歯学部 | 歯学科 | 535,800円 | 282,000円 | 140,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 薬学部 | 薬学科 | 535,800円 | 282,000円 | 117,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| | 薬科学科 | 535,800円 | 282,000円 | 69,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 情報データ科学部 | 情報データ科学科 | 535,800円 | 282,000円 | 4,660円 | 学研災、研修費等 |
| 工学部 | 工学科 | 535,800円 | 282,000円 | 40,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 環境科学部 | 環境科学科 | 535,800円 | 282,000円 | 60,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |
| 水産学部 | 水産学科 | 535,800円 | 282,000円 | 90,000円 | 学研災、後援会、 研修費、同窓会費等 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 経済的理由により修学が困難な学生を支援するために、長崎大学西遊基金の中に修学支援事業基金を設けている。また、留学支援や優れた学生の養成を目的とした奨学金制度を設けている。 免除関係では、令和2年度から開始された高等教育の修学支援新制度対象外の学部学生（令和元年度以前入学者）及び学部留学生に対しても、大学独自で授業料免除を実施している他、新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変したすべての学生にも授業料免除を行っている。また、昨年同様に入学料と前期の授業料の年度末までの納付期限延期も行う。なお、4月に生協の食費等の支援も行った。 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) キャリアセンターで専門のキャリアカウンセラーによるキャリア相談を毎日実施。また、キャリアカウンセラーの資格を持つ職員を配置し、就職活動に関するだけでなく、どんな小さな相談や、急な相談にも対応できるよう充実した相談体制を取っている。 学部から大学院への入学については、各学部において説明会等を開催している。 |

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援のために、保健センター、障がい学生支援室、ダイバーシティ推進センター及び学生支援センターの組織を設けており、例えば、保健センターにおいては、各部局を担当するカウンセラーを配置し、学生のこころの悩みの相談にも応じている。また、新入生のメンタルヘルスサポートとして、4月の健康診断実施時にカウンセラーによる個別相談を行っている。その結果、メンタルヘルス不調者の早期発見による早期対応に繋がっている。

学生相談支援に関すること、メンタルヘルスの保持・増進に関すること等を協議するための「学生相談支援等協議会」を設置し、例年FDとして「長崎大学メンタルヘルス講演会」を開催している。また、障がい学生に関する事項の連絡調整を行うための「長崎大学障がい学生支援連絡会議」やダイバーシティ推進のための「長崎大学ダイバーシティ推進センター運営委員会」を設置している。

その他「学長目安箱」「学生何でも相談室」「障がい学生支援室」「ハラスメント防止」等の学生の心身の健康等に係る支援に関する各種相談窓口・資料について、ホームページ上で公開 (<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/life/advisement/index.html>) している。

また、新入生に対して入学時に「安全・生活指導」のオリエンテーションを実施するとともに、資料の一部として「学生生活案内」を配布し、学生の心身の健康等に係る支援に関する説明・指導を行っており、この中で上級生による新入生への支援システムとして、ピア・サポートについても周知を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：長崎大学ホームページへの掲載により公表

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/index.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------|---------------|
| 学校コード | F142110111189 |
| 学校名 | 長崎大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人長崎大学 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|------|------|------|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 782人 | 786人 | 846人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 420人 | 441人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 214人 | 224人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 148人 | 121人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 22人 |
| 合計（年間） | | | | 868人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 11人 | | |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下) | — | | |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | | |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 0人 | | |
| 計 | 17人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | |
|---------|---|-----|-----|
| 年間 | 0人 | 前半期 | 後半期 |
| | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | — |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | — |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下) | — | | |
| G P A等が下位4分の1 | 99人 | | |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | | | |
| 計 | 99人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。